令和８年度前期　上川支部活動報告

１　前期活動報告（R８年度）

４月２５日　北海道学校体育研究連盟総会参加
６月１２日　令和８年度上川管内学校体育研究会総会
８月　５日　第３８回上川管内学校体育研究大会南部大会（富良野大会）指導案検討
８月１８日　第３８回上川管内学校体育研究大会南部大会（富良野大会）指導案検討
９月　４日　第３８回上川管内学校体育研究大会南部大会（富良野大会）指導案検討
９月１０日　第３８回上川管内学校体育研究大会南部大会（富良野大会）指導案検討

２　活動予定

①第３８回　上川管内学校体育研究大会
日　時　令和８年１０月３０日（金）

授業者　富良野市立扇山小学校　　佐々木　桃　子　教諭
単元　Ａ　体つくり運動　小学校５年　多様な動きをつくる運動　【足し算運動】
富良野市立富良野東中学校　　櫻　井　　瞳　教諭
単元　Ｂ　器械運動　中学校３年　マット運動　【黒子のマット】

助言者　北海道教育庁上川教育局教育支援課　課長　　木野下　尚　大　様
北海道教育大学　　旭　川　校　　教授　　高　瀬　淳　也　様
以上２名の助言者をお招きして研究会開催予定

昨年度の公開研究会の反省・三者合同研修会の内容を踏まえて今年度の上学体の授業つくりのテーマ
①「個の課題の持たせ方」②「子どもを夢中にさせる教師の関わり方」

を踏まえ

今年度の重点「個の課題の持たせ方」「子・個を伸ばす教師行動のあり方」

〇１単位時間で、なにをどのように学ぶのか、なにを身に付けさせたいのかを明確なビジョンが必要
〇単元構想図の考え方の共通認識　　〇小・中の系統性　〇準備運動の方法の共有（主運動につながる）
〇授業者の姿勢　〇導入・習得運動のパターン化＝安心感　〇結果だけ評価ではなく、過程・できているところを見つけて評価　〇ファンスポーツ（遊びから生まれる）　これらを意識した指導案つくり

上川支部　学校体育研究連盟



達成感のある体育授業

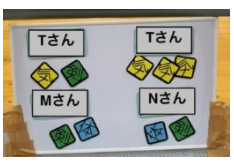
～　できる　わかる　納得する　活動を通して　～

を基にして３つの視点を設定し研究を進めている。

視点１できて達成感　が得られる教材の工夫
視点２わかって達成感　を得られる学習過程
視点３支え合い、わかり合い、つながることで達成感







↓↓大会申し込み↓↓

T（スプレッドシート）を活用した個々の課題の共有→誰が何を課題として取り組んでいるのかの共有
①毎時の振り返りが個の課題へつながっていた
②授業のタイムマネジメントや児童の授業準備の姿が素早い→生活班で場つくりの習慣化
②T1 だけでなく、T2、T3の授業者も声掛け・補助が的確に行われていた
❶個々の課題を立てていた根拠がどうだったのか、自分自身の出来栄えの理解ができていたか
❶❷場の選択のさせ方や活動場所の偏りの解消方法
❷1 人 1 人の評価への具体性がかけていたのではないか
❷児童同士が見合って、互いにアドバイスする場面を設けてもよかった

中学校　鷹栖町立鷹栖中学校　　髙橋　朋亮　教諭　単元：武道「剣道」
①「形」の指導があったことで何をしたらよいかが、明確であった
①「気」「剣」「体」「残心」の評価の規準が明確でよかった
②教師の関わり、声掛けをたくさんされていてよかった
②個の課題に対して、タイミングよく声掛けをしていた
②ホワイトボードを設定して、個々の課題がなにかわかりやすかった
❶課題・改善点はよく伝えていたが、よさももっと伝え合ってもよかった
❷タイマーなどがあると自己調整にもつながったのではないか
❶❷あえて互いにアドバイスをする場面を設けてもよかったのでは、より活気がでた可能性。

R8　1．9　三者合同研修会

◆北海道教育大学旭川校　教授　髙瀬淳也様　からのご教授

【授業の構造って？】
・教員が体育授業の仕組みを理解して、授業をつくっていくことで児童・生徒の資質・能力が高まるのではないか。

⇒ **到達目標＋運動者目線（予想される子どもの動き等）**
この二重構造で授業は作る？

ご教授から　上学体として意識して授業つくりしていくこと
・到達目標→ゴールの姿を教師が明確に持つこと
・単元構想図の構成の仕方（知識→思判表→技能、主、総括的評価）
・子どもが具体的になにに「つまづいている」「困っている」手立てを教師は、考えていく
・形成的評価を次時に生かす（子からの形成的評価指標の活用）

◆北海道教育庁上川教育局教育支援課　課長　木野下　尚大　様　からの情報提供から上学体として

【今後の体育・保健体育教育の動向　～WG の情報提供～　】
〇今後の体育・保健体育では「運動、健康」がキーワード
・「なぜ現行の指導要領から変わるのか」を教員も考えていく必要がある
・WG の資料等から、今から「できることはなにか」「意識したらよいこと」などをアンテナ高くいることが大切であるのではないか。

・WG で出てきている「高次の資質・能力」→体育・保健体育での学びが社会や日常生活に生かせるようにしていくウェルビーイングの考え方。
・日々の授業改善を重ね、運動・スポーツとの「関わり方」「親しみ方」「楽しみ方」を伝えていける授業。
・すべての児童・生徒が内発的動機を引き出せる工夫を日々研究していく
そのために　すぐにできることから

「上（神）スタ」　の　構築

ねらい：共通認識　よい体育授業を目指して！
やり方ではなく、在り方を大切にする意識をみんなで！
だけどまずはやり方を！形だけでもやっていこう！
以下の内容を実際に授業で子どもの姿として現すためには、どのように教師がはたらきかけるとよいかを考えてみる。そして１つでも意識して自分で実践してみる。その繰り返しが、よい授業につながっていく！
以下の内容は３者研修会の参加者から項目ごとに各自の考えを出してもらいまとめたものです。それを実際に、それを引き出すためにはどのようにしたらよいかを考えてもらう資料として作成したものです。

〇学習の勢い

・必要感　やること明確
・上スタ　失敗・ミスの言い換え　→　「チャレンジ」・「トライ」を認めよう
・協力って？具体的な場面・シチュエーション
→
・子どもの表情（顔）がよい→よいってどんな？　明るい高い声で、目が見開き笑っていて、口角が上がって、・ポジティブな声かけが盛んにおこなわれている様子
→それを作り出すためにどうする？
・歓声が上がる→どんな？
「ナイス！」「やったー！」「上手！」「いぇーい！」ハイタッチ　「できたできた」
→それを出させるためにどうする？
・夢中にするためにどうする？
・知らず知らず汗をかいている→どうする？
・授業者、子供ともに学習過程を共有している　何をするのか理解している
→どうする？
・学習課題が子供側に立っている
→どうしたらそうなる？
・学習課題が前時とつながっている
→どうしたらそうなる？
・子どもが運動の特性を味わえている
→どうしたらよい？
・互いに認め合っていて、男女仲が良い（認めっているって？　仲がよいとは？
→どうしたら認める？仲良くなる？　体育授業を通じて、体育の各単元を活用して人間関係の構築を図れるのでは？
→
・前時、次時がどのような指導をしてきたのか、授業なのか気になる
→
・教師と子どもの授業の思いが合致している
→
・一人一人の学習機会が保障されている
→
・休み時間にも、その単元（授業）の練習をしている
→
・授業者のテンション　肯定的なフィードバック　もっとやりたい

→
・早くやってみたい　楽しそう
→
・教師のキャラ　教師が一番ノリノリに　子供の心を揺さぶる
・落ち着いて明確・的確な指示　子供が主役になるように
・勢いが強すぎても×　メリハリ、タイミング
・ハイタッチ　声が出る　励ます

情緒緒的解放肯定的な人間関係

→　安心　気遣い　前向きな言葉かけと態度　否定しない
よいときはよいが、ミスのときこそ雰囲気（学級の）が出る
魔法の言葉（セリフにしちゃえ！）「ナイス」「ナイスチャレンジ」タイミングも教えちゃえ！
教師　「〇〇を意識しているのわかるよ。伝わるよ」「〇〇のところ上手だね」
「上手になったね」意識して声かけよう（できるだけ具体的なところをほめる、伝える）見てることが伝わるように
・恐怖心、恥ずかしさの解放　→　具体的には？

学習規律って？

・合図をきめる　→　合図ってどんな？
・学級ルールと一緒にする　3か条
その１　気持ちのよい言動（気持ちのよいって？）
その１　移動・準備の速さ→具体的に？
その１　指示を聞くことができる　→指示聞いているとは？顔やへその向き、見ているところ

運動時間の確保

・全体説明の時短→板書活用　活動する人数の調整
・サーキット配置　常に運動するように　　例　跳び箱 A　→跳び箱 B　→高く積んだマットで台上前転　→　平均台で川跳び　など
・休み時間から運動　準備・片付け　システム化

教材教具の工夫ってなんでするの？

・恐怖心の軽減　恥ずかしさ、失敗の軽減　やってみたい、できそうと思える教材
→じゃあどの単元でどんなもの？
・授業以外でも→壁にストラックアウト（ラミネートで設置）

１単位時間、単元目標の明確化

・綿密な単元構想図作成　→　じゃあどう作成したらよいの？
・授業課題の意識が子供から薄れないように絶えず声かけ
→じゃあどうするの？指導案や授業計画にとらわれすぎない。その日の時間の子どもたちのための１単位時間に

授業スタイル

・授業前の休み時間から体を動かせるように準備＆苦手な子を誘う→教師が、仲間が
・教師が率先しよい雰囲気を作るような声かけ＆教師が楽しんでいる姿を見せる
・安心してできる雰囲気つくり　ハイタッチ　雰囲気つくり　前向きな声



体育を恨む子をなくすために　上女を救え！
授業者の姿勢　導入・習得運動のパターン化＝安心感
教材の工夫手軽にできる　過去のトラウマ＝授業の雰囲気・風土作り
人間関係構築、意図のあるペア・グループ作り　失敗したときの雰囲気　財産
結果だけ評価ではなく、過程・できているところを見つけて評価
W－UP　遊べる環境　ファンスポーツ

３　今後に向けて　小学校・中学校体育授業　虎の巻メソッド作成予定

これまでの実戦やコツを一つにまとめた資料に！小学校分野作成者募集中！単元ごとやまとまりごとなど

分担して作成してOK！困ったときにこれを見よ！的なものを作成したい！

上川な会

「１年に１回の授業研じゃ全道大会の灯火が消えてしまう」とスタートするプロジェクト。不定期な授業実践交流会と題立てて、会同にて気軽に参加。仲間を増やそうプロジェクト。

4　R8年度活動予定



４月中旬　役員会
４月下旬～５月上旬　総会　今年度授業者選定
７月中旬　指導案検討・上川な会（授業交流会）
８月下旬　指導案検討
９月　　指導案検討
１０月or１１月　研究大会南部大会
１月三者合同研修会

5　2026年度の柱

①上川の授業スタイルの深化に向けて取り組みます。
②自分たちのスキルの向上・発信。新たな仲間作りを目指して
「教育大旭川校」「上川教育局」「上学体研」でダッグを組んで　できることを日々模索中　「今さら聞けない」　と　体育で困ったことがあった時、
頼れる仲間を目指して！！